平成 28 年試験（2016 年 8 月実施）　論文式　的中実績

会計学(午後・財務会計論)

本試験

第 5 問

次のＰ社の決算会議における〔会話の概要〕と，それに関連する〔資料Ｉ〕～〔資料Ｖ〕に基づき，下記の問題 1～問題 4 に答えなさい。連結の範囲は，親会社であるＰ社と在外子会社であるＳ社である。連結会社の会計期間は，いずれも 1 月 1 日から 12 月 31 日までの 1 年間である。税効果は考慮しない。なお，計算結果に端数が生じる場合，千円未満を四捨五入すること。

〔会話の概要〕

～　略　～

社　　長：　ＩＦＲＳでは，企業結合によるのれんの償却を認めていないのだね。

ＩＦＲＳ室長：(ア)日本の「企業結合に関する会計基準」は，のれんを非償却とすることへの問題点に加えて，のれんの償却に意義があると考えて，のれんの規則的な償却を規定しています。したがって，のれんの償却に関する修正を行います。

～　略　～

問題 1

問 1　下線部(ア)について，のれんを非償却とする問題の観点からではなく，のれんの償却を支持する観点から，その理由を説明しなさい。

≪解答 1≫

問 1	のれんは売却ではなく利用を通じて回収を図る資産であるから、有形固定資産と同様に規則的な償却を行うことで、収益と費用の適切な対応を図るべきと考えられるため。

論文グレードアップ答練　第７回

第四問

問１　企業結合で取得したのれんについて，わが国の会計基準では，20 年以内のその効果の及ぶ期間にわたって，定額法又はその他の合理的な方法を用いて規則的に償却すると同時に，一定の閾値を満たす場合には減損損失を認識することが要求されている。

(1)　わが国の会計基準において，企業結合で取得したのれんについて規則的な償却が必要とされている理由を，投資原価の回収計算の観点から説明しなさい。

≪解答1≫

のれんは企業結合において資産及び負債を取得するために支払う投資原価の一部である。
企業結合後における企業の利益は，投資原価を超えて回収された超過額であると考えられるため，当該投資原価と企業結合後の収益との間で適切な期間対応を図る観点から，投資原価の一部であるのれんについて償却を行うことが必要とされている。